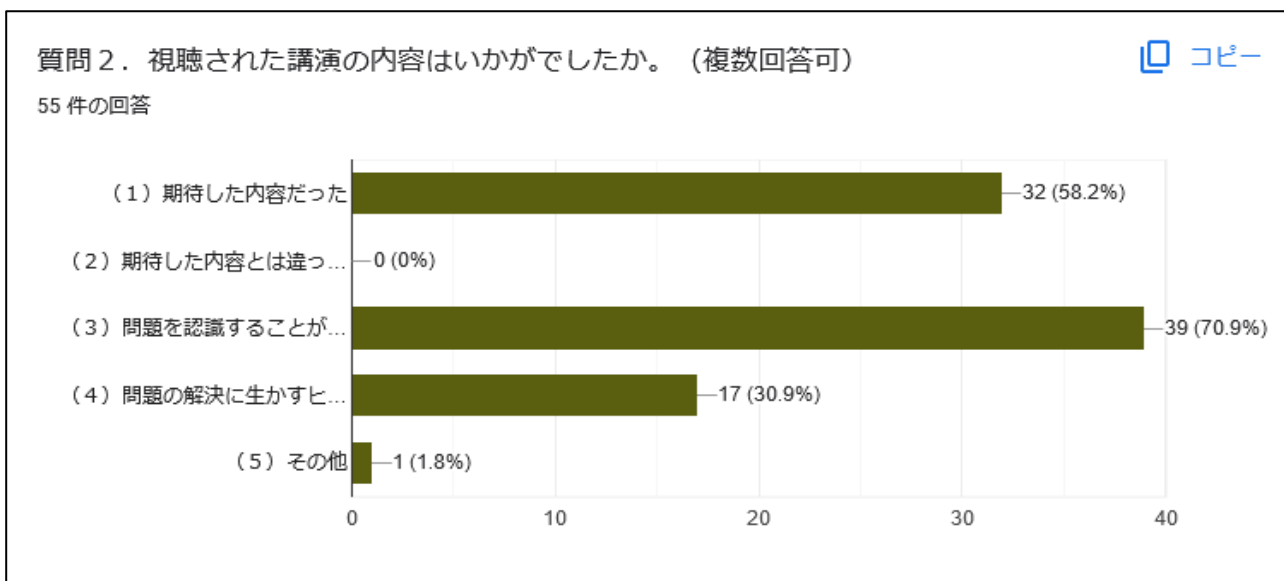
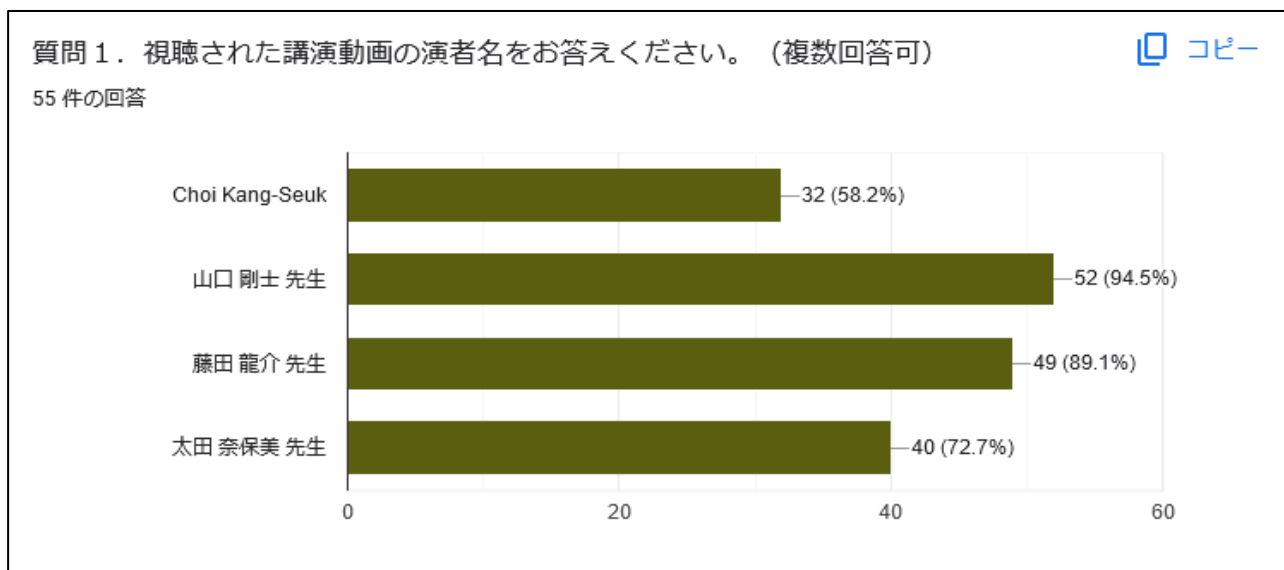


岡山理科大学 獣医学部 国際獣医教育研究センター主催 第6回 国際シンポジウム アンケート集計結果



質問3. 質問2の回答内容を具体的にお答えください。

Kang-Seuk Choi先生

- 1 渡り鳥の関与を再認識した。無症状のケースへの対応。野鳥及び飼養鳥双方に対する積極的なサーベイランスの実施、結果については飼養者及び畜産関係者のみならず国民への情報提供及び意識高揚が重要。日本と韓国の専門家同士の交流・情報共有も引き続き重要。業務を担う人材育成
- 2 日本と韓国の鳥インフルエンザの流行の共通点、および違い。特にアヒルでの臨床症状がほぼなく、農家による発見が難しい等、アヒル飼養数が少ない日本では聞けない話が聞けた。
- 3 日本と異なる状況がわかり、それに伴う対策が参考になった。

山口剛士先生

- 1 現場のエビデンスに基づいて分かりやすい解説でした。動物の鶏舎侵入防止に役立つと思います。
- 2 実際の農場でのデータだったので良かった。
- 3 家畜伝染病にも鶏舎にも詳しくなく、鳥インフルエンザは人を介して蔓延しているものであるという思い込みがありました。密閉性が高い鶏舎でも野生動物が侵入可能であることや、農場には常につきまとうハエの存在が野鳥と鶏を結ぶベクターになることを知り、認識を改める良い機会になりました。
- 4 鶏舎へのいろいろな動物の侵入が起きることを画像でみることができ、感染の起きる原因究明のために広範囲な要因を考えるべきとの示唆が得られた。
- 5 野生動物の侵入に関する動画もインパクトが大きかったです。
- 6 期待を超える内容だった。国内HPAI発生状況が分かりやすく整理されており、疫学調査に基づく発生原因の究明についても、写真や動画を活用して、説得力のあるプレゼンであった。
- 7 思っていた以上に野生動物が鶏舎内に入り込んでいると知ることができた。
- 8 小動物の実際の侵入動画等が参考になった。
- 9 野生動物の侵入リスクのある場所を検討するきっかけになると思いました。
- 10 おそらくは設置しても映らない”外れ”もあり膨大なチャレンジをなされた上にある成果とは思いますが、まさか？と思う隙間もあれば、やはり…と思う場所(経路)からの侵入もあり、隙間を作らない努力の必要性は再認識させられました。しかしながら、畜舎には必ず人間や水・空気の入出が必要であり、開口部をゼロにすることはできず、この情勢下では畜舎に無尽蔵の投資はできません(特に牛)。養牛業界ではネズミ対策としての飼い猫の重要性も言われており、特に小動物(哺乳類)による病原体の伝播について、さらなる知見を示していただくことを希望します。
- 11 小動物の鶏舎内侵入ルートが分かりやすかったです。今年の発生件数が抑えられているのは侵入ルートが発生時期前に徹底した農場が多かったからだと改めて認識しました。
- 12 野生動物が隙間を見つけて侵入する姿を確認し、農場への注意喚起に役立てたいと思いました(特に、アナグマが執拗に隙間を探す姿)。
- 13 家禽飼養者や家保職員がHPAI対策を考える上で必見の内容だと思う。
- 14 養鶏場の指導に役立つ
- 15 野生動物侵入経路等具体的で参考になった。
- 16 HPAI発生農家に関する報告や注意喚起の中で示される野生動物の進入路、侵入の様子が可視化できてよかった。農水省は写真しかないなので、このような動画化したものを公開してもらえると農家や指導する家保的にも良いのでは。
- 17 野生動物の侵入経路について、設置カメラの映像による解説がわかりやすかったので今後の指導に活かしたい。

藤田龍介先生

- 1 これまであまり、オオクロバエ等の腐食性昆虫に目を向けていなかったが、目を向ける必要性を感じた。
- 2 以前からハエがHPAIの感染源ではないかとの指摘があったものの、半信半疑であった。今回藤田先生が示したデータから対策すべき要因の一つであると認識が深まりました。
- 3 媒介者としてハエは考えにありませんでした。非常に勉強になりました。できるだけ早く対策が確立されることを期待します。
- 4 オオクロバエの出水での事例は、可能性が高い。
- 5 近年のHPAIの流行について、疑問に感じていた部分があったが、ウイルスベクターとしてのハエについての講演はその疑問に対し納得のできる説だと思いました。今後の対策の手がかりになると思われました。
- 6 家畜伝染病にも鶏舎にも詳しくなく、鳥インフルエンザは人を介して蔓延しているものであるという思い込みがありました。密閉性が高い鶏舎でも野生動物が侵入可能であることや、農場には常につきまとうハエの存在が野鳥と鶏を結ぶベクターになることを知り、認識を改める良い機会になりました。
- 7 HPAIとオオクロバエの関係について2005年京都の段階で調査されていることは知らなかったのもので、今後の研究の進捗に期待をするとともに問題意識を高めることができました。
- 8 ハエ対策の重要性を認識することが出来ました。これまで、ハエというとイエバエに代表される夏場に問題となるもの（HPAIの発生時期と異なる）という認識から、問題視されることが少なかったと思います。今後、飼養衛生管理基準等における対策も重要となってくるかもしれません。
- 9 本省動物衛生課や県家保とのやり取りでは殆ど触れられることのない内容で、興味深く拝聴できた。普段とは違う視点で各県の防疫対策を考えることができるようになった。ただ、小型で大量の感染源（の可能性）となると、完全な対策は不可能で、作業可能な範囲での対応となるのではないかと思った。
- 10 クロバエ教には懐疑的であったが、大きさだけではない通常ハエ(?)との違いや特徴、特に鹿児島でのサンプリング結果には納得せざるを得ず、本日を以てクロバエ教に入信いたしました。
- 11 オオクロバエの生態を知らなかったため、農家への衛生対策指導に役立てたい。
- 12 概要は知っていて少し眉唾気味な感染経路と認識していたのですが、講演を聞いて大きく変わりました。認識を改めます。
- 13 感染状況と原因(経路)の追究は費用ですが、感染による処分は経済的損失が大きいですし、全く素人として思いますのは、このウイルスに強い鶏品種の開発は無理なんでしょうか。
- 14 高病原性鳥インフルエンザのベクターとしてのオオクロバエの発表のが特に興味深かった。ご紹介いただいた法昆虫学の書籍も購入しようと思う。
- 15 養鶏場の指導に役立つ
鳥インフルエンザを媒介するとされるハエの生態等について参考になった。
- 16 ハエの危険性を再認識させられた。
- 17 虫がベクターとなることも考えておく必要があると思った。

- 18 オオクロバエがウイルス媒介を行っている可能性と対策の方法を知ることができた
- 19 養鶏場への推定される侵入経路について認識することができた。
- 20 藤田先生のスライドはまとまっていて理解しやすかった。

太田奈保美先生

- 1 膨大なデータを様々な集計に活用できるように工夫しており、驚きました。少し使ってから気がついた点があれば、ご相談させていただきたいと思います。
- 2 ここまで詳細に整理されていることを初めて知りました。業務上で必要がありましたら、活用しようと思います。ありがとうございます。
近年の状況や、研究内容について知ることができた。対策の一助としたい。
- 3 ホームページも存在を知らなかった。一目で家禽と野鳥の発生状況を確認できるので、今後利用していきたい。
- 4 簡単に過去のHPAI確認状況を知ることができ、今後も情報を蓄積し、内容もグレードアップして頂きたい。

質問4. 講演の内容について質問がありましたら、演者名と質問内容をご記入ください。

Kang-Seuk Choi先生

- 1 H9N2ワクチンの接種率はどれくらいか。1996年以降の発生はあるか。

藤田龍介先生

- 1 オオクロバエの素のう、腸管および排せつ物のウイルス力価について知見はございますか。
また、今シーズンと昨シーズンでは、野鳥における感染個体数はそれほど差はありませんが、家きんにおける発生は昨シーズンに比べ、収まっている状況です。その違いはオオクロバエとの関連から、どのように考察されていますでしょうか。
- 2 出水で採取されたオオクロバエから感染性のあるウイルスが検出されたとありますが、具体的にはどれくらいの量のウイルスが検出されたのでしょうか。ウイルスを持ったオオクロバエ1羽を鶏が食べた場合、鶏で感染が成立するほどのウイルス量を持っているのでしょうか？
- 3 オオクロバエが冬に朝鮮半島から移動するという話があったがどのように海を渡るか。
- 4 腐肉食性のハエ以外、例えばゴキブリなども感染源として重要でしょうか？

太田奈保美先生

鶏卵業界のポータルサイトに太田先生が紹介されたサイトのリンクを貼らせていただけませんか。

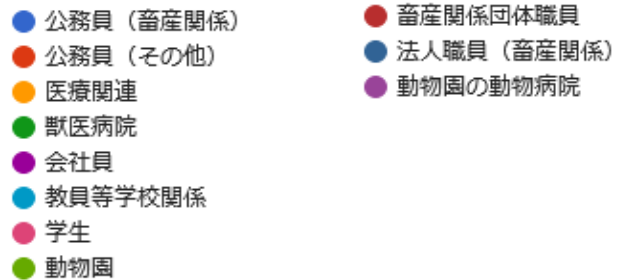
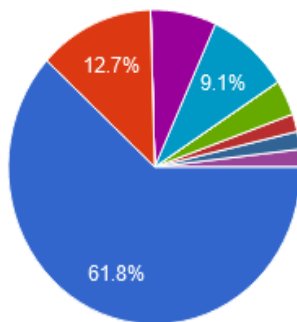
- 1 とても良くまとまっているサイトだと感心しました。
また、大変かと思いますが、疫学調査結果もまとめてみれたら、今後の防疫の参考になるかと思いました。

その他

- 1 大量殺処分する時の体制、例えば軍関係者等の協力を得る場合もあるのか。殺処分の規模にもよるが殺処分に要する時間はどうなっているか。
- 2 とにかく養鶏場に見て欲しい。今回の視聴対象は養鶏場も含まれてますか。含まれない場合、みる機会を設けて欲しい。

質問5. 貴方のご職業をお聞きます。

55件の回答



職業	回答人数	職業	回答人数
会社員	4	畜産関係団体職員	1
教員等学校関係	5	動物園	2
公務員(その他)	7	動物園の動物病院	1
公務員(畜産関係)	34	法人職員(畜産関係)	1

質問6. シンポジウムへのご意見、ご感想、今後取り上げて欲しいテーマなどがありましたらご記入ください。

ご意見・ご感想

- 1 効果的な対策を県等の関係者を通じて農場経営者まで一層浸透させてほしい。
- 2 タイムリーな話題について専門とするいろいろな先生方の講演が聞けて、感染症への取り組みの方向性を知ることのできる有用なシンポジウムであった。多くの人に視聴してもらいたい内容と思った。
- 3 今後も今回のオオクロバエの事例のような最新の研究報告を取り上げてもらいたい

4 興味深い講演をありがとうございました。

5 スライドの資料をいただけると良いです。

6 獣医関係で鳥インフルエンザを取り上げていただいているセミナー等ありますが、業界関係者は全く情報を得ることができません。このシンポジウムも別ルートから教えていただきました。聴講するととても分かりやすく的確に説明されていると感じるのですが、ほぼ業界関係者は知らないのももったいなく感じました。何とか、そのパイプが繋がれば、と思っています。

7 資料の配布をしていただけると、ありがたいです。職場で情報共有したいため。

8 貴重な場を設けていただき、大変ありがとうございました。ぜひまたこのような、1テーマを多彩な角度から見られる講演会を開催していただけると嬉しいです。

9 今後も今回のようにYouTubeで参加できるようにして頂けるとありがたいです。

10 藤田先生のオオクロバエの研究とても興味深かったです。続報がでた際には、また取り上げていただけると助かります。

11 養鶏場を見ると説得力がある。

12 今回、HPAI発生状況などの発信ページやオオクロバエによる媒介の研究内容について、詳細に教えていただけたため、今後の業務に活かしていきたいと思います。

今後取り上げてほしいテーマ

1 養豚場における安楽死の方法について

2 鳥インフルエンザワクチンについて

3 寄生虫による人獣感染症

4 豚熱の疫学調査(豚熱の感染経路の究明)についても取り上げてほしい。

5 衛生害虫対策や鳥獣害対策へのAI技術活用と開発の現状 など

6 衛生昆虫、例えばサシバエやマダニの防除対策をテーマにしてほしい。